

健口づくりで全身の健康を!

そして健口日本一のまち・旭川をめざしましょう



健口って!?

お口の中の健康を保つことは全身の健康にとっても関係があります。「食べること」「話すこと」はもちろんです。お口の中のバイ菌が糖尿病や心臓の病気、また誤嚥(誤って肺に飲み込むこと)性の肺炎を起こしたり、妊娠中のお母さんにも影響がありますよ。また、よく噛めることは脳にも刺激し、介護や認知症などを遅らせることにもなります。



8020
運動とは?

80歳のときに20本の歯が残っているとほぼ何でも食べられるということ、私たち歯科や保健関係者もお手伝いしますの

で、市民のみなさんも20本といわず、24本くらい残るようにがんばって下さい。4歳から14歳くらいのフッ素うがいはそのためにもとっても大事なのです。



口腔ケアは
とっても大切!

旭川歯科医師会では心身障害のある方の専門的治療、摂食や嚥下診療といて、食べ物をお口に入れて噛むこと、そして飲み込むこともうまくできない病気を持った子供さんや高齢による方の医科とも連携したりハビリなど、またさまざまな機会を設けて市民の方へ口腔ケアの指導やお話しをしています。さらには口腔がん検診の予防・早期発見なども進めて来ています。

旭川市議会でもフッ素うがいの 推進が決議されました。

小学校等におけるフッ化物洗口を推進する決議

食へることや話すことを生涯にわたって支える口腔の機能は、人が生きていく上で重要な役割を果たしている。近年、歯及び口腔の健康を保持することが、生活習慣病予防をはじめとする全身の健康状態の維持増進、介護予防等に貢献することが明らかになってきている。

また、厚生労働省のフッ化物洗口ガイドラインによれば、フッ化物洗口は、4歳児から14歳までの期間に実施することが虫歯予防対策として最も大きな効果をもたらすとされている。

このため、道民の口腔機能の低下を予防し、8020運動の目標を達成するためには、歯の喪失の主な原因である虫歯を予防する必要があり、その有効な手段としてフッ化物の利用は重要である。

しかしながら、道民の歯及び口腔の健康に対する認知は十分でなく、歯科疾患有病率は全国平均と比較して高い状況が見られることから、生涯を通じた歯・口腔の健康づくりに関する対策を総合

的かつ効果的に推進するため、北海道は「北海道歯・口腔の健康づくり8020推進条例」を制定し、本条例の第11条に「学校等におけるフッ化物洗口の普及」を掲げている。

本市では平成7年から市内幼稚園、保育所においてフッ化物洗口が実施され、平成21年3月現在において、36の施設で実施されているが、これをさらに普及させるとともに、市内の小学校等での実施に向けた取り組みが望まれる。

よって、旭川市議会は、北海道において「北海道歯・口腔の健康づくり8020推進条例」が制定されたことを踏まえ、関係者と十分協議の上、小学校等におけるフッ化物洗口の推進により、健康習慣行動を通じて子どもたちがみずから健康を保持することへの理解を深め、生涯にわたる健康づくりの基礎となることを期するものである。

以上、決議する。

平成21年10月14日

旭川市議会